

平成25年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬中学校第1学年

	学力調査から見えた課題（調査のない教科は授業における課題）	授業改善のための具体策（重点）	成果と課題（年度末）
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・話す力・聞く力が定着していない。特に、話し合いでの意見交換が活発にならない。 ・自分の考えを言葉で明確に表現する力が不足している。 ・説明的文章の読解力における差が大きく開いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に、話すこと・聞くことの領域の学習活動を行い、学期に一度、テーマを設定して討論活動を行う。 ・学習の最も基本となる言語事項の育成のために、学習語彙を用いた短作文の指導をする。 ・文章読解力を高めるために、要点まとめや、あらすじを書く訓練を取り入れる。 	
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・清瀬市の学力調査の結果から、ほとんどの観点・領域で目標を上回っていたが、知識・理解は十分とはいえない。 ・基礎的・基本的内容を理解している生徒が多いが、数学的な考え方が身に付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始時に前時の復習を行う。毎週行っている確認テストと隔週行っている朝学習の中に知識・理解の問題を多く取り入れて理解を深めさせる。 ・週に1時間少人数授業で行う演習プリントの中に数学的な考え方の問題を取り入れて考える力を身に付けさせる。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・授業には集中して臨む生徒が多いものの、用語の理解と技能の習得が不十分である。 ・社会的事象の背景や影響について思考する力が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明はより一層簡潔にかつ要点を押さえて行い、前時の復習も取り入れる。プリントを活用し、基礎的・基本的な用語や技能について生徒がきちんと理解して身に付けることができるようにする。 ・生徒がそれまでに身に付けた知識や技能を活用して、主体的に考えることのできる課題を用意し、取り組ませる。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・理科に対する興味が薄い。 ・基本語句の定着がはかされていない。 ・討論において意見が活発に出ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞やニュースで扱われる内容を、身近に感じてもらうよう解説する。 ・小テストや問題演習を取り入れる。 ・自分の過去の経験を思いだし、関連付けて意見を出すよう訓練する。その上で授業で習った内容を加えて討論を展開するよう練習する。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・表現活動は好んで取り組むが、ワークシートへの書き込み等、言語活動を面倒くさがる生徒がいる。 ・男子生徒の中に表現活動を真面目に取り組もうとしない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導で個別に説明したり、学習の援助をして取り組ませる。 ・授業規律を指導し、真剣に取り組むことにより音楽の楽しさを味わうことができることを体験させる。また、毎時間、的確な授業評価を行うことにより、次の授業への関心意欲を高める。 	
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な描画力、観察力に差がある。 ・板書が苦手な生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・描画や観察における基本的なポイントをかみ砕いて説明し、自発的な表現、鑑賞活動になるよう授業の流れや指示の仕方を工夫する。 ・机間指導を丁寧に行い、書き取りが苦手な生徒に対しては個別に指導していく。 	
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な運動経験が不足しているのか、行動が遅い。 ・体力測定では、基本的な体力が全体的に低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時の授業で繰り返し運動動作を行うことで基本的な動作が習得できるように促す。 ・視覚教材を使い、見て学ばせたり、学習カードを使って運動のやり方や意図を理解させると同時に、各種目の中でさまざまな動きを経験させながら、頻度を増やし行っていく。 	
技術・家庭	<p>〈技術〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的に作業を進めることのできない生徒がいる。 ・提出物に関して意識の低い生徒がいる。 <p>〈家庭〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出物に関して意識の低い生徒がいる。 	<p>〈技術〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各作業で使える時間を更に明確にし、計画的に進めるよう指導する。必要ならば、昼休み、放課後の取り組みも呼びかける。 ・提出物の意識が低い生徒については、個別の呼びかけもしているが、呼びかけの回数を増やす。 <p>〈家庭〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出物については、個別の呼びかけ、提出の確認を行う。 	
外国語（英語）	<ul style="list-style-type: none"> ・音声・語彙・単文の知識が思ったより少ない。 ・基礎的な語彙や文が定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で音声指導をていねいに行う。また、いろいろな教材を与えたり、音声や視覚など多方面から触れさせ、くりかえし指導をして語彙を増やす。 ・授業で楽しく学べるように工夫しながら、基本表現を強調し、くりかえし使わせることによって表現を定着させていく。 	

平成25年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬中学校第2学年

	学力調査から見えた課題（調査のない教科は授業における課題）	授業改善のための具体策（重点）	成果と課題（年度末）
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字、語彙、文法など言語に関する知識が乏しい。 文章読解において、必要な情報を取り出す力に課題がみられる。特に、物事を比較関連付けて読み取る力及び、心情描写の読み取りが弱い。 作文において、表現力豊かに心情を伝えることが苦手である。また、構成を意識して書くことができない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 言語能力の定着のために、言語知識を確認する小テストを毎時間行う。 読解指導で、対比や言い換えに注目して読み進める指導に力を入れる。また中心的な情報と付加的な情報に分けさせたり取り出させたりして、内容を読み取らせる。心情描写について学ばせるなど重点的に行う。 表現力を磨くため、短文交流や類義語による表現の違いを学ばせ、授業の中で具体的に気持ちを述べさせる機会を増やす。 	
数学	<ul style="list-style-type: none"> 得た知識理解が、見方や考え方に繋がっていない。 計算問題や方程式を解くことはできるが、その解法について、「なぜそうなるか」という原理が身に付いていない。 授業内の発言について消極的。他人まかせにしたり、教員が答えを言ってくれるのを待ってしまう生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章題や図形の問題について、より細かな説明や既習事項と関連付けた見方をさせる。 公式を自ら導かせたり、自分の解法を全体に説明させることで、解法についての理解を深めさせる。 授業は間違える場でもあり、また、隣同士で教え合えるように指導と助言をする。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な用語について、知識を身につけていない生徒が多く見られる。用語を覚えている生徒でも、多くはその意味まで十分に理解していない。 資料を活用して答える問題では、資料の読み込みが不十分な生徒が多い。また、複数の資料を比較参照して取り組むことができない。 授業で学んだ技能についても、十分に使いこなせないために解けない問題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な用語について、授業内で意味まできちんと習得する機会をつくる。 授業で資料の読み込みを積極的に取り入れる。 授業で扱った技能について、それを活用して解く演習を行っていく。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 発言をためらう生徒が多い。 説明を聞いておらず、実験や観察の目的、手順を理解しないまま取り組むことがある。また、物をはかり取る、量を調節するといった、日常生活の動きが十分身に付いておらず、適切な実験技能の修得につながらない。 一問一答の問題には積極的に取り組むが、思考力を必要とする問題や、自分の考えを表す問題を避けようとする生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 隣同士、班単位などの少人数の話し合いで、自分の意見を発表する機会を多く作る。 話を聞かせる姿勢を徹底し、行動観察から適切な実験・観察のやり方を指導していく。 ワークシートや小テスト等で、日常的に書くことに慣れさせていく。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 全般的には意欲的に取り組んでいるが、一部の生徒が集中できず全体の学習活動の妨げになる行動をとることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別に声をかけ、授業に気持ちが向くように指導を継続する。生徒間でも声かけをし、お互いに学び合う中で仲間意識を高め、音楽に対する関心・意欲を向上させる。また、音楽祭という行事を通してクラスのチームワークをつくり、協力し合って音楽を創り上げる楽しさを味わわせる。 	
美術	<ul style="list-style-type: none"> 集中して取り組むことが苦手だったり、はじめから諦めてしまっている生徒がいる。 取り組みの質に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業ごとに目標を明示し、作業時間の目安を細かく伝える。「何を」「どこまで」行えばよいかを明確に伝えるようにする。個別に目を配り、つまづいている点を把握し、アドバイスしていく。 作品例や方法を明示し、目安となるレベルを目指して取り組ませる。 	
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動に対しての意欲は高いが、内容が伴っていない場面が見られる。 各単元において、基本的な運動動作やルール、基本用語等の理解が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的な面は生かしながら、内容の理解を高めていく。 自己の課題を明確にし、視聴覚教材を使用した授業や学習カードを用いて自己評価をすることによって、改善方法を考えさせる。 	
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> 〈技術〉 多くの生徒はまじめに取り組んでいるが意欲に欠ける生徒もいる。 製作途中で点検に提出できない生徒がいた。 〈家庭〉 提出物に関して意識の低い生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 〈技術〉 できるだけ分かりやすい説明を心がけ、興味をもって1時間取り組めるよう、動機付けに力を入れる。 欠席すると作業も遅れ、提出日に間に合わないので、欠席者への対応を、丁寧に行う。 〈家庭〉 提出物については、個別の呼びかけ、提出の確認を行う。 	
外国語（英語）	<ul style="list-style-type: none"> 基礎知識は多少あるが、それをもとに書いたり話したりなどの表現することが苦手な生徒が多い。 学力が二極分化し、英語に対して苦手意識を持っている生徒たちは、最初から取り組みを諦めてしまう傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で簡単な会話を日常的に行ったり、基本的な英作文の機会を多く設ける。また簡単な表現を繰り返し練習させ、習得することで自信を持たせる。 アクティビティやALTとの授業を通して、英語を楽しみと実感できる授業作りに努め、英語への苦手意識を軽減させる。また、苦手意識を持っている生徒は成功体験を持つことが必要なので、取り組みやすい教材を工夫する。 	

平成25年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬中学校第3学年

	学力調査から見えた課題（調査のない教科は授業における課題）	授業改善のための具体策（重点）	成果と課題（年度末）
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・言語の知識を活用し自分の言葉で表現する力が弱い。 ・説明的な文章全体の構成をつかむ力が弱い。 ・文学的文章は主題や概要はつかめていても、登場人物の心情理解、細部読みができない。 ・作文に抵抗感を示す生徒が多く、一定量の文章が書けない。また、語彙にこだわり、表現を工夫して述べる力が付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習語彙を用いた短作文の練習と発表を行う。 ・説明的文章の構成や内容の展開を意識させるため、段落の働きを中心にした学習を行う。また、要点まとめをすることで、内容把握の強化につなげる。 ・文学的文章では、人物心情に迫る思考を促すような発問をする。 ・文章を書くための構成パターンを示して、抵抗なく書かせる工夫をする。 	
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・「主として活用を問う問題」及び「選択・記述の解答形式の問題」の正答率が東京都の平均を下回っている。知識を理解し身に付ける力はあるが、紛らわしい文章・表現から選択する力、自らの考えを文章にする力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各分野の知識を確認することは日々の授業で行っていくが、文章を読むこと、表現していくことに課題があるため、数量では、文章題・式の表し方・式が何を表しているかを発表していくことで改善を図る。図形の分野では、証明問題をはじめとした記述式の問題を穴埋め問題、完全証明など、様々な回答方式の問題を扱うことで、解答を選択する力をつける。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・各分野における基本的内容の理解の定着が十分でない生徒がいる。 ・学習内容をふまえて、自分自身の考えをまとめ、発表・記述する力が十分でない生徒がいる。 ・さまざまな内容を関連させての発問に対して答えを引き出す力が十分でない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各分野の基本的な内容の定着のため、毎時間、前時の復習としての発問をすすめていく。 ・時事的な内容や他の単元とも関連させながらの発問と発表を増やし、授業をすすめていく。 ・学習内容をふまえ、自分の意見をまとめていく機会をできるだけ多くもつようにする。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・自然科学の現象そのものについて興味関心をもっているが、その現象を学問として学ぶことに対して抵抗がある生徒が多い。 ・実験を行う上で目的意識に欠ける生徒がいる。 ・全体的に定量的に物事を扱うのが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の科学技術が自然科学の現象を学問として磨き上げた結果であることを知ることのできる機会を数多く作る。 ・実験の意義や課題を生徒自身に書かせてから実験を行う。 ・実験や問題演習を通して、生徒が自らの力で計算する機会を多くつくる。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・全般的に表現活動には関心・意欲が高いが、演奏や音楽を聴いて評価をしたり、批評する力が乏しい生徒がいる。 ・集団で活動する学習に協調して取り組めない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を鑑賞したり、他者の演奏を聴いたときに意見交換をしたり、相互評価をしたりする言語活動の機会を多くもつ。 ・音楽祭という行事の取り組みを通して、皆で音楽を創り上げる楽しさや喜びを味わわせ、音楽に対する関心・意欲を高める。 	
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・自己を見つめて表現活動に活かすことが苦手な生徒がいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品構築のためのワークシートや鑑賞活動等を通して、自己の考え、感覚を見つめる機会をつくる。グルーptークを取り入れ相互啓発を促す。 	
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への意欲は高いが、内容の理解や運動技術の修得には個人差がある。 ・3年間のまとめとして今後に繋がるよう各単元の技能や知識の修得を目指したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自に自分に合ったためあての設定を充分にさせ、各単元において毎時間目標をもって取り組めるようにする。 ・めあてを明確にし、学習カードの活用で自己評価をさせ、さらにグループ活動等で相互評価をすることによって自分を振り返る時間を作っていく。 	
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> 〈技術〉 ・作業前に説明を行い、各自後作業に入るが、作業中再び、説明内容を聞く生徒がいる。 〈家庭〉 ・幼児や家族について、関心の低い生徒がいる。 ・提出物に関して意識の低い生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 〈技術〉 ・実物を使い、更に理解しやすい説明の実施。板書内容を記入させたプリントを作業場所に持って行かせる。 〈家庭〉 ・保育については、「幼児の成長に関すること」や「家族について」を意識した授業づくり、教材研究を行い、意識や意欲を高めさせる。 ・提出物については、個別の呼びかけ、提出の確認を行う。 	
外国語（英語）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に対して意欲的な生徒が多いが、英語を話したり書いたりすることに苦手意識をもつ生徒が多い。 ・英語の基礎的な内容の理解ができていない生徒がいる。 ・長文を読むことに対して苦手意識をもつ生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容をふまえた上で、英語を書いたり話したりする機会を多く作る。その際、どこまでできれば良いのかを明確にし、達成感を味わうことができるようにする。 ・主語と動詞の品詞分けをする作業を増やす。1、2年の学習内容を復習する小テストを実施する。 ・定期考査で長文問題を出題する。授業ではフレーズリーディングを心がけ、まとまりで文章を区切るように指導する。 	